

白山南縦走線の植物 (II)

後藤 常明

Vegetation on the South Ridge of Mt. Hakusan (II)

Tsuneaki GOTO

1. はじめに

筆者らは、1988年より岐阜県博物館特別展「白山の自然」開催準備のため、白山の岐阜県側において調査と資料収集、写真撮影にあたった。その成果の一部は、岐阜県博物館調査研究報告第11号(1990)および特別展「白山の自然」展示解説書で報告した。この報告は1990年の調査報告に追加するものである。なお、調査地は先の報告の第1地点と第2地点に隣接した油坂ノ頭、天池のそれぞれ北側にあたる。先の報告では、1989年8月・9月の高茎草原、雪田群落、ハイマツ帯の植生について扱ったが、今度は、1990年7月の油坂ノ頭頂上部分の植物相および天池の北側にあるミヤマハンノキ低木林について報告する。

2. 調査方法

油坂ノ頭では、一帯に生育する植物の種名を記録した。

天池の北側では方形区調査(2m×2m)を行い、植生の概観を記録した。方形区調査は出現種の被度をBraun-Blanquetの方法で、群度を中西ら(1983)の方法によって記録した。

3. 調査内容

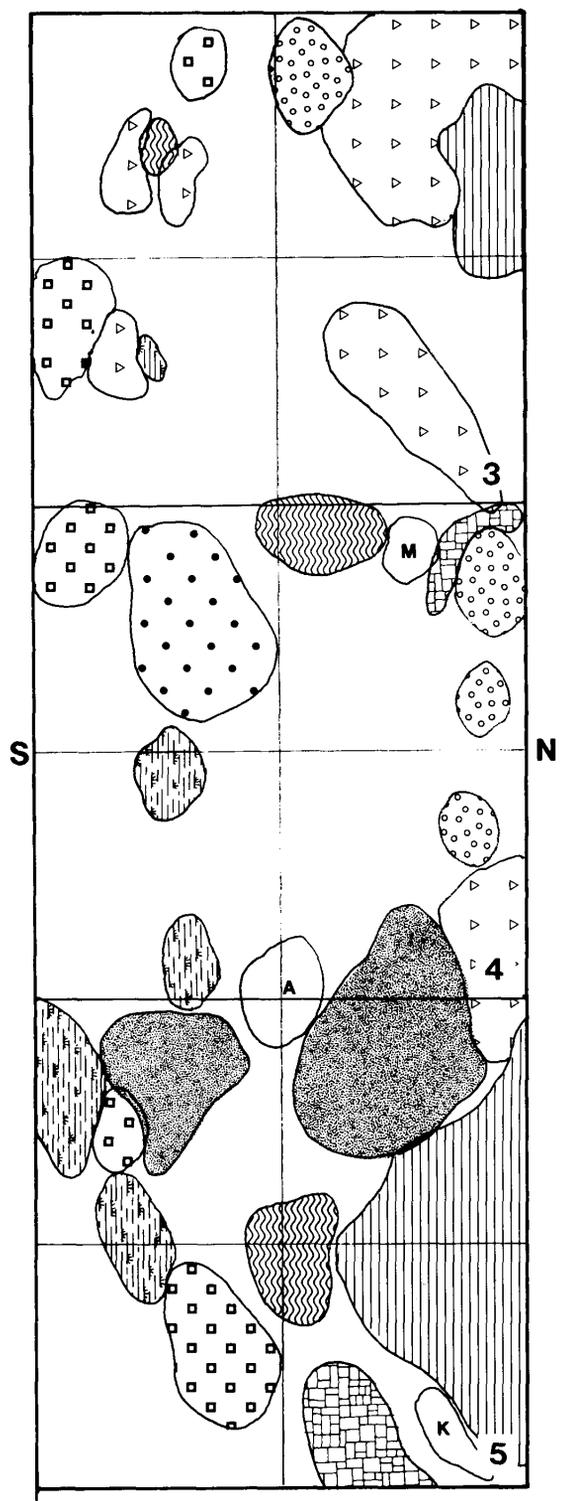
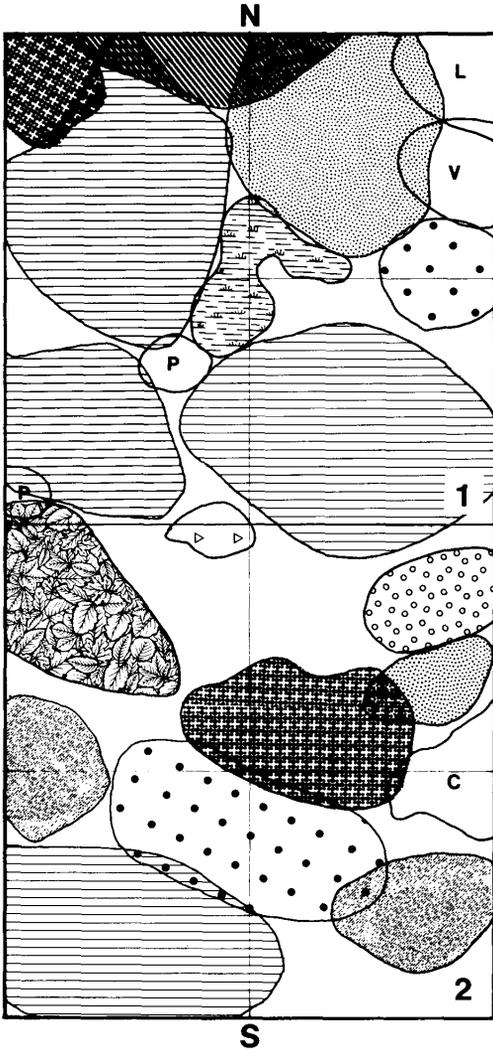
(1) 油坂ノ頭

ここは、1989年に方形区調査を実施して植生を記録した(後藤, 1990)地点の北側上部にあたる。以下に観察した植物の種名を列挙する。

〈木本〉	〈草本〉		
オオシラビソ	イタドリ	オオバキスミレ	ヒトツバヨモギ
ハイマツ	イブキトラノオ	ハクサンボウフウ	ヒロハコメススキ
ダケカンバ	ハクサンイチゲ	タテヤマウツボグサ	ショウジョウスゲ
ミヤマハンノキ	ミヤマキンボウゲ	クロトウヒレン	タテヤマスゲ
ハナヒリノキ	ヤマガラシ	ミヤマアキノキリンソウ	マイズルソウ
ミヤマホツツジ	カライトソウ	ヤマハハコ	ニッコウキスゲ
チシマザサ	シモツケソウ	クモマニガナ	コバイケイソウ
タカネナナカマド	イワオウギ	ノアザミ	タカネアオヤギソウ
	ハクサンフウロ	ミヤマコウゾリナ	テガタチドリ 以上35種

(2) 天池の北側

調査地はミヤマハンノキ低木林となっているが、林内に2m×4mの区域をとり、また、林縁の外に2m×6mの区域をとって、これらを5つの方形区(2m×2m)に区切って調査した。第1・第2方形区が林内、第3・4・5方形区は林縁の外側である。以下に各方形区の植生概観平面スケッチ(図)およびミヤマハンノキ低木林周縁部の種組成(表)を示す。



- | | | | |
|--|------------|---|-----------|
| | ミヤマハンノキ | | ヒロハコメススキ |
| | ダケカンバ | | クモニガナ |
| | ミヤマホツツジ | | 蘚類 |
| | チシマザサ類 | L | ハナヒリノキ |
| | オンタデ | C | ハクサンアザミ |
| | カライトソウ | P | ハクサンボウフウ |
| | ニッコウキスゲ | V | コケモモ |
| | ミヤマコウゾリナ | M | ミヤマクワガタ |
| | オオバキスミレ | A | ヤマハハコ |
| | ショウジョウスゲ | K | ミヤマヌカボシソウ |
| | タカネヒカゲノカズラ | | |

図 調査区の植生概観 (平面スケッチ)

表 ミヤマハンノキ低木林周縁部の種組成
(林内：1・2区，林外：3・4・5区)

調査区	1	2	3	4	5
出現種数					
種名	21	15	8	12	11
ミヤマハンノキ	4.2	2.1	1.1	—	2.1
カライトソウ	2.3	1.2	—	—	—
藓類	1.3	1.3	2.3	1.3	1.3
ヒロハコメススキ	1.3	—	1.2	1.3	1.3
チシマザサ類	1.3	—	—	—	—
オンタデ	1.2	2.2	—	1.2	—
ハクサンボウフウ	1.2	1.2	—	—	—
ミヤマホツツジ	1.2	1.1	—	—	—
コケモモ	1.2	—	—	—	—
タカネマツムシソウ	1.2	—	—	—	—
ショウジョウスゲ	1.1	1.3	—	—	—
ダケカンパ	1.1	1.1	—	—	—
ミヤマコウゾリナ	1.1	—	1.2	1.2	1.2
クモマニガナ	1.1	—	1.2	1.2	1.2
ヤマハハコ	1.1	—	—	1.2	—
ハナヒリノキ	1.1	—	—	—	—
コイワカガミ	1.1	—	—	—	—
タカネヒカゲノカズラ	+	—	—	1.2	1.2
キソチドリ	+	—	—	—	—
ヤマブキシヨウマ	+	—	—	—	—
ミヤマダイモンジソウ	+	—	—	—	—
ニッコウキスゲ	—	1.2	1.2	1.2	—
ハクサンアザミ	—	1.2	—	—	—
タテヤマスゲ	—	1.2	—	—	—
ミヤマアキノキリンソウ	—	1.1	—	—	—
シモツケソウ	—	1.1	—	—	—
ハクサンチドリ	—	+	—	—	—
ミネカエデ	—	+	—	—	—
イワアカバナ	—	—	+	—	—
ヨツバシオガマ	—	—	+	—	—
ミヤマクワガタ	—	—	—	1.2	—
オオバキスミレ	—	—	—	1.1	2.2
シナノオトギリ	—	—	—	+	—
オオバノヨツバムグラ	—	—	—	+	—
ミヤマヌカボシソウ	—	—	—	—	1.2
タテヤマウツボグサ	—	—	—	—	+
ネバリノギラン	—	—	—	—	+
ミヤマキンボウゲ	—	—	—	—	+

4. 考察とまとめ

(1) 油坂ノ頭

油坂ノ頭 (2256m) の頂上部分は 5 m 四方程度の狭いところであるが、南北に走る尾根にあり西側は丈の低いオオシラビソ (アオモリトドマツ)、ダケカンパの風衝林、頂上にわずかのハイマツ、東側の風背急斜面には狭い草地がある。ここでは種子植物だけでも 35 種類以上が確認された。種類から判断して亜高山帯の植生である。

(2) 天池の北側

鈴木 (1970) によれば、白山のミヤマハンノキ低木林は 2300m 以上の風背側の堆雪斜面に発達し、常在種はミヤマハンノキ、ウラジロナナカマド、ミヤマドジョウツナギ、カラクサイノデ、エゾノヨツバムグラ、オオバシヨリマなどであり、2100m 以下ではヤハズハンノキに代わる。そして、生育地は海拔 2200m ~ 2480m の中陰または向陽、適湿または湿潤地で風当たりは中または強と加えている。また、名古屋営林支局 (編：1990) は、ミヤマハンノキ群落の発達域をダケカンパ群落上限から上位のハイマツ群落に移行する 2000m ~ 2300m の間にし、常在種はミヤマハンノキ、ミヤマドジョウツナギ、カラクサイノデ、ヒロハユキザサ、エンレイソウなどとしている。これらの文献の調査地は合計 14 区であるが、別山の 1 区 (2200m) を除いていずれも 2300m 以上の地点であり、筆者の調査した地点 (2230m) より高所であった。

今回の調査と鈴木 (1970) の別山 (2200m) の出現種と共通するのは、ミヤマハンノキ、エゾノヨツバムグラ (オオバノヨツバムグラ)、ハクサンアザミ、イワカガミ (コイワカガミ)、ミヤマホツツジ、タテヤマスゲの 6 種であった。また、他の 2300m 以上の地点での出現種と比較したとき共通するのはミヤマハンノキ、エゾノヨツバムグラ (オオバノヨツバムグラ)、イワカガミ (コイワカガミ)、ミネカエデ、チシマザサの 5 種であった。全出現種について、標高を考えなければ今回と鈴木では共通するものが 8 種 (21%) である。

この調査に限定すれば、白山のミヤマハンノキ低木林の植生は下部で共通種がハクサンアザ

ミ、ミヤマホツツジ、タテヤマスゲとなり、上部で共通種がミネカエデ、チシマザサとなる。ただし、これは考え方の例でデータの蓄積が必要である。

ところで、上記の文献にあるミヤマハンノキ低木林（群落）と筆者の調査地との共通出現種が少ないのは、筆者が意図的に群落の周縁部に調査地を設定したためで、いわゆるミヤマハンノキ低木林の典型と異なる種組成が現れて当然である。この点で、本報は、ミヤマハンノキ低木林（群落）周縁部分の移行的な植生の一例としたい。

参考文献

- 後藤常明, 1990. 白山南縦走線の植物. 岐阜県博物館調査研究報告書, (11): 13-26. 岐阜.
名古屋営林支局 (編), 1990. 白山森林生態系保護地域設定報告書. 名古屋.
中西 哲・大場達之・武田義明・服部 保, 1983. 日本の植生図鑑〈1〉森林. 大阪.
宮脇 昭 (編), 1977. 日本の植生. 東京
鈴木時夫, 1970. 白山の植生分布と垂直植生帯. 日本自然保護協会中部支部白山学術調査団(編)「白山の自然」, pp. 114-156. 石川.